

宝くじ おもしろ話

「ネーミングくじ」のアラカルト 暮れに46回目の発売「初夢くじ」

発売する「宝くじ」に、より親しみを感じてもらえるよう、正式名称とは別に愛称風の「別称」を付けて発売することがある。こうした宝くじを「ネーミングくじ」というが、全国自治宝くじが発売する場合と、各ブロック宝くじが連携して同時発売する場合があり、ともに全国で発売される。このほかに個別のブロックによる地域発売のケースがある。

令和3年度の場合、全国で発売予定される「ネーミングくじ」は計9つだ。なじみ深いところでは「幸運の女神くじ」（6月・各ブロッ

ク宝くじ）「宝くじの日記念」（8月・全国自治宝くじ）「初夢くじ」（12月・各ブロック宝くじ）「新春運だめしくじ」（1月▶同）などがある。

この中で一番歴史が古いのは「初夢くじ」だ。誕生したのは昭和51年12月27日で、各ブロックくじから発売された。また、変わりダネは「宝くじの日記念」だ。誕生したのは昭和43年9月だが、56年夏に新発売のサマージャンボ宝くじと発売時期が重なったため廃止された。

しかし、平成9年にサマージャンボ宝くじの発売時期が7月に移動。これにともない8月30日から発売の第384回全国自治宝くじで「宝くじの日記念」が復活。そして、今日に至っている。「クジにも歴史あり」ですね。



ご当地くーちゃん
石見銀くーちゃん

宝くじ おもしろ話

毎年、必ず「この日に開催」する 宝くじの重要業務3つ

1年365日。宝くじの年間の発売業務上、毎年、決まった日に、曜日など関係なく、実施される重要業務が3つある。さて、その月日と業務内容をおわかりだろうか。

1つ目は「4月1日」だ。年度初めの「4月1日」に、各ブロック宝くじでは当年度最初の回別の普通くじを発売開始する。このようになったのは平成12年度からで、以後、曜日に関係なく4月1日から発売されている。

2つ目は「9月2日」。これは語呂合わせ

よろしく「宝くじの日」で、制定されたのは昭和42年9月2日。時効当せん金の防止を目的に、曜日に関係なく、この日に各種のPR行事を開催している。人気の行事は過去1年間に発売された宝くじのハズレ券を対象にした再抽せんで、おしゃれな賞品が当たる。

最後は「12月31日」だ。毎年、この日に1年の納めの宝くじともいえるべき「年末ジャンボ宝くじ」（全国自治宝くじ）の抽せん会が行われる。年末に発売する全国自治宝くじの抽せん会が大みそかに開催されるようになった最初は昭和32年暮れに発売の第13回全国自治宝くじからで、いまから63年前だ。



ご当地くーちゃん
からつくんちくーちゃん

宝くじ おもしろ話

歴史を物語る「発売回別」 いまでも続く6つの夢の花

現在発売されている「宝くじ」の種類は、発売主体別にみて全部で6つ。それぞれを「第1回」発売の古い順に紹介すると。

- ①東京都宝くじ=昭和21年3月10日。
- ②全国自治宝くじ=昭和29年12月1日。
- ③近畿宝くじ=昭和30年4月2日。
- ④関東・中部連合自治宝くじ=昭和30年4月2日。なお昭和34年4月2日発売の第103回から東北6県が参加し、名称が「関東・中部・東北自治宝くじ」になった。
- ⑤へき地医療等振興自治宝くじ=昭和49年

4月5日。発売主体は栃木県で、平成1年4月20日発売の「第167回」から名称が「地域医療等振興自治宝くじ」となった。宝くじの歴史を語る「発売回別」だが、令和3年7月末現在の各宝くじの「発売回別」は。
◎東京都=2509回◎関中東=2571回◎近畿=2693回◎西日本=2379回◎地医等=415回だ。

今年発売75周年の東京都宝くじ。最長老なのに発売回別では第3位。「近畿」に追い抜かれたのは昭和60年4月（第1234回）で、「関中東」に追い抜かれたのは平成10年5月（第1634回）だ。なぜ、追い抜かれたか。最大の理由は地医等の発売時に東京都は常に市場を提供し、発売休止しているからだ。なお、地医等の年間発売回数は当初9回だったが平成元年からは5回となっている。



ご当地クーちゃん
五島手延うどんクーちゃん